

～今月の概要～

■■ INDEX ■■

特集①) 最近の商品傾向【23区以外・75㎡以上住戸検証】 P.1～15

～はじめに～

- 【1】 23区・23区以外別 供給面積の推移
- 【2】 23区以外物件／75㎡以上住戸の商品傾向①②
- 【3】 23区以外物件／面積帯別供給エリアと最高価格の変化①②③
- 【4】 23区以外物件／75㎡以上住戸採用物件 堅調・好調物件一覧
- 【5】 『75㎡以上主力』事例:「ザ・パークハウス横浜新子安フロント」
- 【6】 『プレミアム住戸採用』事例:「プラウド浦安」
- 【7】 『100㎡住戸採用』事例:「メイツ西白井」
- 【8】 『70㎡後半×中住戸4LDK』
- 【まとめ】

特集②) マンション市場における環境配慮・脱炭素の動き P.1～14

◆環境配慮・脱炭素が求められている背景 ◆業界に求められている対応

- 【1】-①「ZEH(ゼッチ)・ZEH-M(マンション)」について
  - ②全国「高層・超高層ZEHマンション(分譲)」の交付決定事業
  - ③首都圏「ZEHマンション(分譲)」の供給一覧
- 【2】 ZEHマンション(分譲)事例①・②/「ルネ上尾」・「ローレルコート赤羽」
- 【3】分譲マンション:「電気自動車の充電設備」採用状況①②
- 【4】首都圏の「木造建設物(マンション・オフィスなど)の動き①・②
- 【まとめ】

～次号(2021年10月)の予定～

- ◆特集レポート
  - ・(仮)秋商戦の動向
  - ・(仮)2021年10月 お客様意識調査

■■ 2021年9月:特集レポートダイジェスト ■■

特集①) 最近の商品傾向【23区以外・75㎡以上住戸検証】

近年、新築マンション市場では、価格の上昇に伴い、面積は縮小傾向。首都圏の平均面積は60㎡台半ばとなり、マーケットでは“75㎡以上住戸(面積広め)”の供給が少なくなっている。

そうした中、長谷工アーベスト販売提携物件をみると、“75㎡以上住戸”が高グロスながら進捗良好な物件が散見。

本レポートでは、マーケットで希少性が高まる“75㎡以上住戸”の最近の傾向を確認し、特に、23区以外での採用の可能性について、事例を踏まえ検証。

特集②) マンション市場における環境配慮・脱炭素の動き

温暖化・気候変動等の影響により、世界的に環境配慮・脱炭素に向けた動きは加速しており、国内の住宅業界では【省エネ】・【創エネ】、【木材の利用】など、自動車業界では【電動化】など、その他、様々な対応が求められてきている。

新築マンション市場においても、「ZEH-M(ゼッチマンション)」・「木造建物(共用棟・一部木造)」の増加や「電気自動車の充電設備」の採用などの動きがみられるようになってきており、徐々に環境配慮・脱炭素への取組は進んできている。

本レポートでは、そうした新築マンション市場における動きについて、「ZEH-M」の供給状況やお客様評価等を中心に確認。